



油見公園の大気測定局

大気汚染の測定
 市の大気汚染の状況を常時監視するための環境大気測定局が、油見公園に有ります。この測定局では、硫酸酸化物、窒素酸化物、オキシダントなどの大気汚染物質の濃度を常時自動測定しており、その測定データは環境整備課や県で確認できるようになっています。また、測定局は県内各地に設置され、市と他市町の大気の状態も比較することができます。

大竹市の環境の変化

近年の大竹市の環境は、昭和40年代と比較すると大幅に改善され、苦情件数も減少しています。

	大気環境		水質環境	苦情件数	
	二酸化硫黄	降下ばいじん	海域(COD)	総苦情	悪臭
測定場所	油見地区内	油見地区内	大竹港沖表層	市全域	市全域
比較値	年間平均値	年間平均値	年間平均値	年間件数	年間件数
昭和40年代	昭和43(1968)年 0.045(ppm)	昭和40(1965)年 9.41(トン/㎢/月)	昭和45(1970)年 7.7(ppm)	昭和47(1972)年 126件	89件
平成22(2010)年度	0.002(ppm)	1.62(トン/㎢/月)	2.5(ppm)	20件	1件

(注)「COD」とは、海水などの汚れ度合いを示す数値で、この数値が高いほど水中の汚濁物質の量が多いことを示します。
 (注)「降下ばいじん」とは、ススや燃えかすの固体粒子状物質のことです。

県内の大気汚染常時監視測定局測定データ比較

平成22年度の大竹市の二酸化硫黄、浮遊粒子状物質の濃度は、共に環境基準に適合し、県内の他の地域と比べて特に悪いということはありません。

二酸化硫黄濃度測定結果

(単位:ppm)

市町名	濃度	市町名	濃度
大竹市	0.002	竹原市①	0.002
広島市①	0.001	竹原市②	0.001
広島市②	0.001	竹原市③	0.001
広島市③	0.002	大崎上島町	0.002
海田町	0.006	三原市	0.001
呉市①	0.002	福山市①	0.001
呉市②	0.002	福山市②	0.002
呉市③	0.002	福山市③	0.004
呉市④	0.003	福山市④	0.004
呉市⑤	0.002	福山市⑤	0.001
東広島市	0.004	福山市⑥	0.002
三次市	0.001	福山市⑦	0.001
		府中市	0.001

(注)「二酸化硫黄」とは、硫黄分を含んだ重油や軽油などの化石燃料が燃焼する際に発生するガスのことです。

浮遊粒子状物質濃度測定結果

(単位:mg/m³)

市町名	濃度
大竹市	0.020
広島市	0.027
呉市	0.024
竹原市	0.020
三原市	0.021
尾道市	0.022
福山市	0.023
府中市	0.025
東広島市	0.021
廿日市市	0.021
三次市	0.019
海田町	0.026
大崎上島町	0.024
北広島町	0.016

(注)「浮遊粒子状物質」とは、大気中に浮遊する粒径が10μm(マイクロメートル)以下の粒子状の物質のことです。

(注)測定箇所が複数有る市町は、平均値を表示しています。



公害の無い都市から 人・産業・自然環境が共生する都市へ

問い合わせ 環境整備課 ☎ 5224

公害のまちのイメージが強いと言われる大竹市も、近年は他市町と比べても遜色ないほど、環境が改善されています。大竹市の環境の今を、環境整備課の野田英之課長に聞いてみました。

私は、昭和53年に入庁し、当時港町にあった、公害監視センターに配属されました。当時は全国の工業都市で公害問題が深刻化し、その解決のため国が法の整備を行い、本地域でも公害防止計画の基本方針が内閣総理大臣から県知事に示されるなど、公害防止対策が積極的に進められている時期でした。

市の公害問題が表面化したのは、昭和36年に当時の経済企画庁が大竹・岩国地先海域を水質調査対象地域としてからでした。当時は工場からのばい煙(※)や工場排水、家庭からの生活排水などで、大気汚染(※)や水質汚濁、悪臭などの問題が深刻化していました。また、苦情件数も多く、市民生活も良好なものとは言えませんでした。

そのため、児童の健康調査、各種協議会の設置、市内各所で環境測定が実施されました。また、昭和48年に実施した市政世論調査では、「将来市が

進むべき道」の第1位に「公害のない町づくり(42.5%)」が挙げられ、市民の公害問題への関心の高さが伺えます。これらを受け、昭和51年に策定された最初の総合計画の将来都市像は、「公害のない、豊かな、明るい活気に満ちた工業都市」となりました。

私が入庁して約35年が経過しますが、市民、企業、市によるさまざまな公害防止対策の取り組みにより、市域の大気、水質、悪臭などの環境は大幅に改善され、公害のないまちになったと言っても過言ではありません。昨年は、大竹地域での光化学オキシダント(※)警報の発令もありませんでした。また、悪臭などの苦情件数も大幅に減少しています。

しかしながら、私たちはこれまでの取り組みだけで満足してはいけません。今後、地球温暖化防止など新たな環境問題の解決に向けた取り組みを進めて行く必要があります。

そこで、市民、企業、市が協力して快適な大竹市を実現するため、平成22年3月に「環境基本条例」を制定しました。また、平成23年3月には「人・産業・自然 環境共生都市おたけ」を将来環境像として位置づけた「環境基本計画」を策定し、環境行政を積極的に進めています。

市民が健康で快適な生活を送れる環境を保つことが必要です。今後とも企業や市民の皆さんの協力を得て、より住みやすい安全なまちとなるよう、努めて参ります。



環境整備課 野田 英之 課長

【用語の解説】
ばい煙
 物の燃焼などに伴い発生する「硫酸酸化物」「ばいじん(いわゆるスス)」「有害物質(カドミウムなど)」などの物質のことです。

大気汚染
 工場から出るばい煙に多く含まれる二酸化硫黄や、自動車の排気ガスとして出される二酸化窒素などを中心とした大気の汚染。その他、浮遊粒子状物質、降下ばいじんなどが含まれます。

光化学オキシダント
 工場や自動車などから排出される窒素酸化物などが、太陽の光で化学反応を起こす現象で、目やのどの痛みなどを引き起こします。